



# 宇輝人

vol.62

## 子どもと農の未来を育む——。

### 子どもたちが学び育つ環境を

燦爛と降り注ぐ光に青葉を吹く風。辺りには小さな生き物たちの存在が感じられる田畑が広がる。丁寧に整備されたブルーベリー園では、実る果実をその場で頬張り、子どもたちは心と体を思いっきり使って遊びまわる。ここは、「PLAY FARM」。子どもの遊び場と

### 農園が一つになった場所だ。

週末になると、子どもたちのにぎやかな声が響き渡る——。園を営むのは松橋町の野村烈さん。45歳の時に公務員から農家に転身した。「幼い頃は、川や田んぼでしゃべりながら遊んでいて(笑)。身近な自然は学びの場でもありませんでした。自分にとってここで得たものは大きかったです。でも、

### 今の子どもたちは自由に遊べる場所や時間が減っている気がして……

その場にあるモノを遊びに変えられる空間をつくって、子どもたちが自由に学び育つ環境を残していきたいな。将来自慢できるような、記憶に残るような場所になったらいいなと思うようになって……。いつか帰りたいかなるようなふるさとにしたかったんです。」

### 地域の記憶を残しながら、共に

園にはシンボリックな存在、ツリーハウスがある。このツリーハウスの母屋があった場所。県内に大きな被害をもたらした熊本地震で住まいが半壊、小屋は全壊した。多くの人が避難生活を余儀なくされたこの災害で、地域のつながりの大切さを改めて痛



- 1~4 至る所が遊びの場
- 5 草や葉でモノ作り
- 6 こうし作り体験
- 7~10 自分で採った果物の味は格別♡かき氷にのせて

PLAY FARM は、ツリーハウスカフェ、みんなの台所「かまや」、循環型の里山「みどりのゆりかご」、ブルーベリー園、田畑からなる人と自然との関わりが生まれる農園。米や季節の果物、熊本の伝統野菜などを育てたり、採れたてを調理して食べたりして土に触れる体

験などを重ね、自分たちが一から作ることで豊かな暮らしとは何かを考えるきっかけづくりを行う。在来植物や土を利用した里山は3年後にはヤマブドウやアケビ、ヤマモモなどの実がなる森に成長。生態系を守りながら、持続可能な農の風景をつくっていく。



たくさんとれたよ♪



野村 烈 Nomura Isao

昭和48年生まれ。松橋町在住。公務員時代は主にまちづくりに携わる。地域の若手農業者と「豊福地域・農の未来創造協議会」をつくり農業経営などを学ぶ。稼げる、面白い、子育てに寄与するを目的に持続可能な農業を目指している。

PLAY FARM 詳しくはこちら



### 食と農を次世代へつなきたい

子どもたちの遊び場と、地域の食と農業をつなきたいという思いは、子どもと農の可能性を次世代につないでいく——。

### カフェを担当する小森田百合子さんは、「ここではさまざま

なモノの成り立ちを知ることができま

す。食が育ってきたのかわかる機会は大

切。だから、この取り組みに協力していきたいと思

ったんです。」と笑顔を見せる。「ここは農への入り口。子どもたちが自分の口に入る物に興味が湧いたら、農業にも目を向けてくれるかも知れない。そして、自然との関わりを通して考

え、生きていく力を育み、自分を取り巻く世界を感じてほしい。農業はもつと子どもたちに影響を与えられると思うんです。」

子どもたちの遊び場と、地域の食と農業をつなきたいという思いは、子どもと農の可能性を次世代につないでいく——。